

暦の上では春を迎えました

春はそろそろそろそろまで

これを書いているのは二月五日です。

一月終盤の大寒波、とんでもなかったですね。ここ松浦でも、数年ぶりの雪で、かなりの積雪となりました。あちらこちらでは水道管が破裂したりして、しばらく水に不自由な生活を送らざるをえなかった地域もあったようです。

その寒波が到来して以降、気温はわりと平年並みか、やや低めに推移しております。これが本来の冬なのですが、一月半ば頃まで暖冬傾向であったため、より寒さが厳しく感じますね。

この記事を書いている時点で、長崎県内では「インフルエンザ注意報」が発表されていて、いよいよ流行期に入りました。外出時にはマスクを着用して、咳エチケットの徹底、外出から帰ってきたときにはしっかりと手洗いうがいを励行するようにしましょう。インフルエンザに罹患しないように、また罹患した場合の感染源とならないようにしましょう。



季節の言葉あれこれ

ということ、今回もまたこの時期を彩る言葉のいくつかをご紹介したいと思います。

【東風】(うち)

文字通り、東から吹いてくる風のことです。東から吹く風は年がら年中吹いていますが、ここでは「この季節を表わす言葉」としての意味でのご紹介。

冬型の気圧配置が、徐々に春のそれとなり始めるころに吹く東風のことを「こち」といい、短歌や俳句などでは春の季語として扱われています。

例えば、有名な菅原道真公が詠んだ歌

東風吹かば にはひおこせよ 梅の花

主なしとて 春を忘るな

ここで詠まれている「東風」という言葉が、「梅の花が咲く時期を表わす言葉」としての春の季語で、広く使われています。

ちなみにこの「東風」は、太平洋上から吹いてくる、やわらかく弱いものを指ししめすものだそうです。

しかし、この東風は主に低気圧によっても

たらされるもので、多くの場合は雨をとめない、また天気も不安定になりやすいものです。少々画像が小さく、見づらいですが、図で示しますと



このように低気圧の中心に向かって東風が吹き込みます。これにより、強風や時化などをともなうこともあるので、漁業を生業としている人々にとっては「東風時化(こちしけ)」として恐れられていたという記述も見られます。

春の季語としての「東風」には、その訪れを知らせる雅な響きがあります。しかし、天気の上ではその趣とは違って、ときに厳しい現象をもたらす場合もあります。